

すぎぎのこ



高崎大学附属こども園

「スーパー戦隊」が担っていたもの

先日ニュースで「スーパー戦隊シリーズ」が一九七五年の「秘密戦隊ゴレンジャー」から始まり、「ナンバーワン戦隊ゴジウジャ

号」で五十年たち、一区切り・終了を迎えるというニュースを見ました。少子化の影響もあるでしょうが、それ以外にも子どもを取り巻く環境の変化があげられます。YouTube・配信サービスの台頭等で、かつてのように「毎週テレビの前に集まる」子ども像は変化しました。また玩具を中心としたビジネスモデルの限界などがあげられるそうです。

このスーパー戦隊シリーズが担ってきたものは幼児にとつて大切なことがあったように思います。



伝えたように思います。戦隊は単独最強ではありません。仲間を信じることや弱さを認めること、最後まで諦めないことなどを「強さ」として描いてきました。

また「日常を守るヒーロー」という安心感がありました。ヒーローは遠い存在ではなく、自分たちの生活圏を守る存在として描かれました。これは子どもにとつて「世界は守られている」という基本的安心感につながっていたと思います。

そして五十年続いたことによつて、親子・祖父母が同じシリーズを語る文化になったという点もすごいことだと思えます。私の思い出の戦隊は「カクレンジャー」です。「カクレンジャーあ〜、ニンジャあ〜」と言いながら、自分の子どもと布団の上で戦いごっこをしたことが懐かしく楽しい思い出です。このように親子の会話もできず、園や学校での遊び、こ

遊びを通して社会性の発達にも大きく寄与しました。ごっこ遊びでは、ルール作りと交渉力を学んできていました。例えば「今

度は交代ね」「やられたことにしよう」「ここから基地に戻ることにしよう」と自分たちでルールを決めています。戦隊ごっこでは、子ども同士で話し合い・折り合い・合意形成が頻繁に行われます。これは、大人が介入しすぎると育ちにいい力です。

以上、スーパー戦隊が担ってきたものは、友だちや仲間と力を合わせることで、役割を分担すること、うまくいなくてもやり直すこと、困っている人を見過さないこと、これはまさしく**幼児教育の柱**といえるものです。先日の生活発表会でもこのような姿がいたるところで見られました。

もし戦隊シリーズが一区切りを迎えたとしても、ヒーロー文化そのものが消えることはありません。これからは、一人のヒーロー、日常の中の小さな勇氣、失敗しながら成長する主人公といった、より現実に近いヒーロー像が増えていくのではないのでしょうか。言い換えれば「特別な力」より「誰にでもできる正義」、つまり友だちをかばったり困っている人に声

をかけたたりする優しさが正義につながることを子どもたちに伝えていく必要が増えてくるかもしれない。また、間違いを認めたりルールを破ったりしたときに謝る勇氣も大切になってきます。こうした行動が「かっこいい」とされる物語が今後はさらに求められることでしょう。テレビが担っていた正義のモデルや友だち関係の本、感情の扱い方、これらを、園や家庭が言葉と体験で補っていく時代になってくるのでしよう。今後もおうちと園でそのよ

卒園おめでとうございます

三月一七日に年長児さんは修了証書授与式を迎えます。少し早いですが、年長児の保護者のみなさま、卒園おめでとうございませう。お子様が尚綱こども園の自然いっぱい、愛情いっぱいの中で体験されたことはこれからの人格形成の基盤として生き続けていくことでしょう。今後、お子様が幸せな人生を歩んでいかれることを心より願っています。